

次期「基本計画」(叩き台) 概要

1 次期基本計画の策定にあたって

2 神戸市基本構想

神戸らしさと未来への方向性

3 神戸のこれまでと今

- (1) 神戸の経済発展・・・①開港とともに発展したまち ②時代の変化に伴う産業の転換
- (2) 神戸の人口推移・・・①これまでの人口推移 ②神戸の人口動態の特徴 ③今後の人口見通し
- (3) 神戸の都市開発・・・①これまでのまちづくり ②現在の状況
- (4) 災害を乗り越えてきたまち・・・①災害の歴史 ②市民の誇り
- (5) これまでの取り組みにより見込まれるまちの変化
・・・①神戸空港の国際化 ②都心三宮・WFの再開発 ③駅周辺のリノベーション ④森林・里山の再生

4 基本構想を実現するための方向性

基本姿勢 未来を見据えた都市の持続可能性を最重視します

方向性① 世界と繋がる2つの港「新たな時代の国際都市」へ

方向性② 個性豊かで多様な地域の融合「日常と非日常が交わり続ける都市」へ

方向性③ とともに乗り越え育んだ絆「いつまでも幸せを感じ、分かち合える都市」へ

5 目標値(KGI) (案)

6 10年後の神戸の都市像(仮)

1. 次期基本計画の策定にあたって

総合基本計画

約30年ぶりに策定！

基本構想

基本理念
まちの魅力

現行期間 1993～2025年

基本計画

2035年に向けた方向性・目指す都市像

現行期間 2011～2025年

実施計画

基本計画を実現するための2030年に向けた施策

現行期間 2021～2025年

順次策定

現行の総合基本計画が

2025年度末に終期を迎えるため

次期「総合基本計画」策定へ



2024年12月 「基本構想」策定



次期「基本計画」の策定

基本構想で示した方向性の実現に向け、

「今後10年間の取り組みの方向性」と

「目指す都市像」について、

多くの市民・関係者と議論・意見交換を

行いながら、一緒に策定

2. 神戸市基本構想

「ありがたい姿」

これまで神戸には多くのものが
受け継がれてきました
これから神戸は
世代や立場を超えた繋がりの中で
広く内外に貢献し
未来に向けて進んでいきます

培ってきた技術と知の集積により
時代を彩る産業とひとが育つまちへ
世界を臨む海や空からひとが集い
新たな価値の創造を実現するまちへ

誰もがひとに寄り添い、助け合いながら
それぞれの夢に挑戦できるまちへ
豊かな自然とひとの営みが織りなす
一人ひとりが幸せを感じられるまちへ

神戸は、いつまでもまちの誇りを育み
次代に紡いでいきます

目的・願い

具体的な政策
(手段)

大きな方向性

人間らしい
あたたかみのあるまち

多彩な表情を
みせるまち

海と山に囲まれた
みなとまち

「神戸らしさ」

神戸は、海と山に囲まれた
美しいみなとまちです
開港以来、海外との交流を重ね
文化や流行を日本に生みだしてきました

神戸は、多彩な表情を見せるまちです
都会と里山の共存
洗練されたまち並みと下町の活気
まちに溶け込む坂道も
毎日違う風景を見せてくれます

神戸は、人間らしい
あたたかみのあるまちです
ともに困難を乗り越えていく絆
多様性がある開かれた気風
いつでも神戸は
すべてのひとをやさしく包み込みます

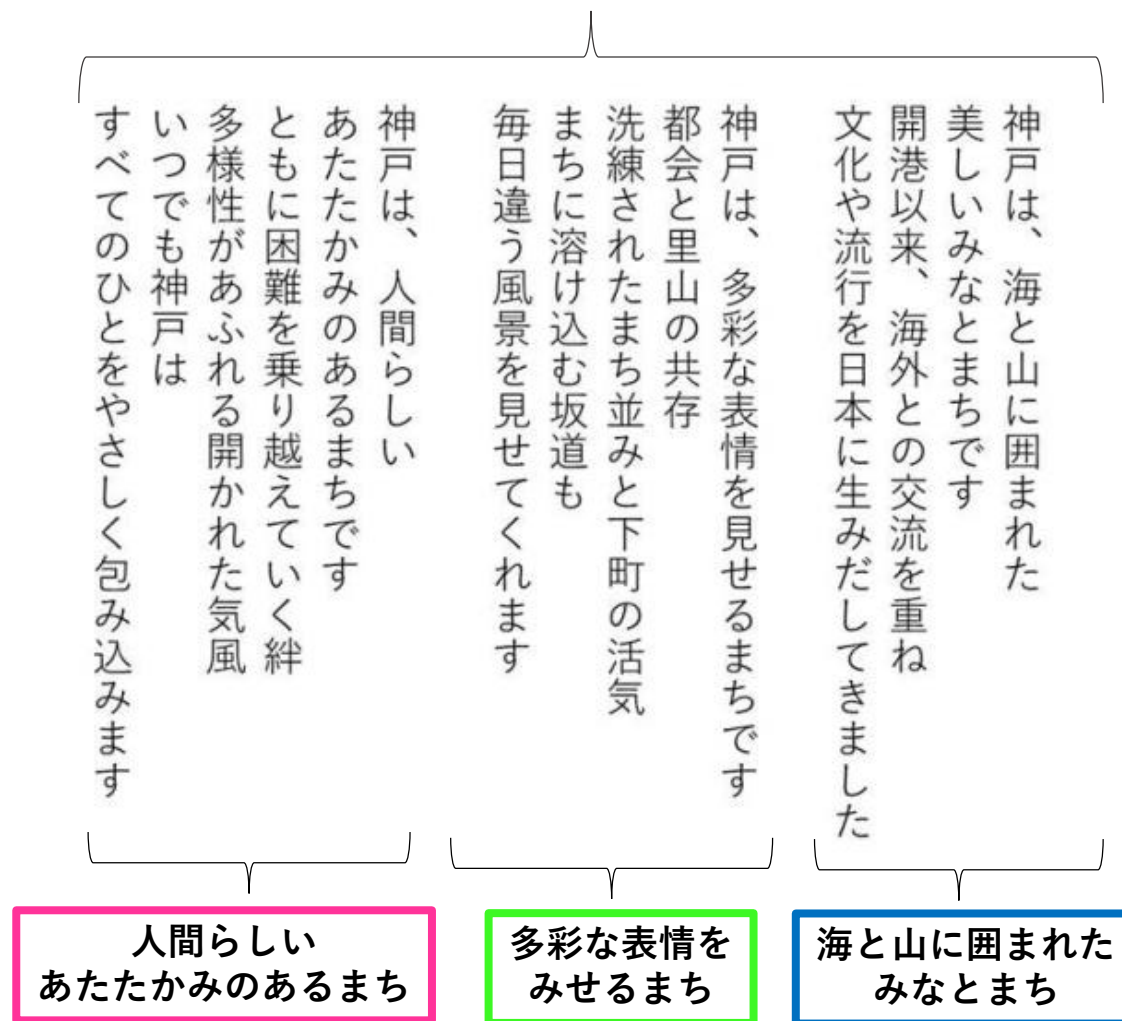
2. 神戸市基本構想

・神戸は大都市でありながら**海と山といった自然**に恵まれ、古くから「**進取の気性**」に富む、**国際色豊かな港町**として発展し、**新たな流行や文化**を生み出してきました。

・人の手が入り続けることによって緑滴る山になった**六甲山**、茅葺民家が点在する**里山**、古来からの**景勝地**、須磨や垂水の**海岸**、**外国風の建物**が残るまち並みや、多くの人で賑わう**市場**、風情あふれる**下町**、身近にある**坂道**からの眺望も、先人たちが守り育ててきたものです。

・また、神戸は、戦災や水害、震災など多くの試練に直面する度に、まちを愛する人たちが、国籍や人種を超え、**それぞれを尊重しながら支え合い、乗り越えてきました**。この絆があるからこそ、神戸には**多様な主体が互いに認め合い、助け合う優しさ**を感じることができます。

「神戸らしさ」



2. 神戸市基本構想

ありたい姿

これまで神戸には多くのものが
受け継がれてきました
これから神戸は
世代や立場を超えた繋がりの中で
広く内外に貢献し
未来に向けて進んでいきます

培ってきた技術と知の集積により
時代を彩る産業とひとが育つまちへ
世界を臨む海や空からひとが集い
新たな価値の創造を実現するまちへ

誰もがひとに寄り添い、助け合いながら
それぞれの夢に挑戦できるまちへ
豊かな自然とひとの営みが織りなす
一人ひとりが幸せを感じられるまちへ

神戸は、いつまでもまちの誇りを育み
次代に紡いでいきます

目的・願い

具体的な政策
(手段)

大きな方向性

多くの市民の方々からいただいたご意見・メッセージが凝縮され、未来に向けて神戸のありたい姿が描かれています。

「時代を彩る産業とひとが育つまち」

「新たな価値の創造を実現するまち」

「それぞれの夢に挑戦できるまち」

「一人ひとりが幸せを感じられるまち」

これらは、いずれも先人から受け継いだ**神戸らしさを活かし、さらなる歩みを進めるにあたっての指針**です。

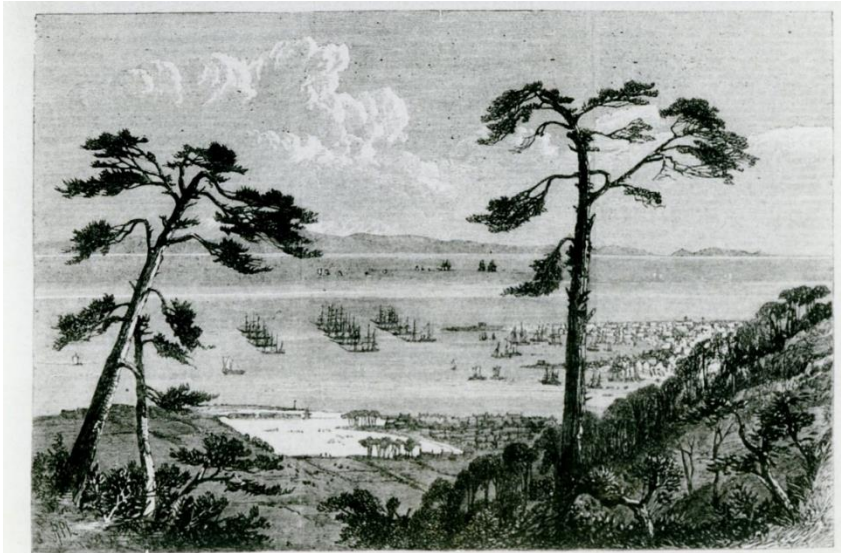
市民の皆様とともに作り上げた神戸のありたい姿を追い求めていくことで、まちを愛する心が生まれ、まちの誇りが育まれます。

神戸市基本構想には、このような、いつまでも、神戸らしさを磨き、まちの誇りを育み、次代に紡いでいきたいという市民の想いが込められています。

3. 神戸のこれまでと今 (1) 神戸の経済発展

①開港とともに発展したまち

- 1863年、日米通商条約により兵庫開港決定
- 1868年1月1日 神戸開港



開港当日の神戸港の風景



メリケン波止場（明治末期）



外国人居留地
(神戸市立中央図書館蔵)

3. 神戸のこれまでと今 (1) 神戸の経済発展

②時代の変化に伴う産業の転換

- 港湾物流を活かす、物流・重工長大産業の発達
- 医療・バイオ産業の集積など産業の多様化
- 新産業の育成（スタートアップ支援等）



イノベーションが創出される
会員制ビジネススクエア（アンカー神戸）



世界で6番目のAI・IoT人材育成拠点を開設 ⁷



医療産業都市
（ポートアイランド）



昭和43年の神戸港

3. 神戸のこれまでと今 (1) 神戸の経済発展

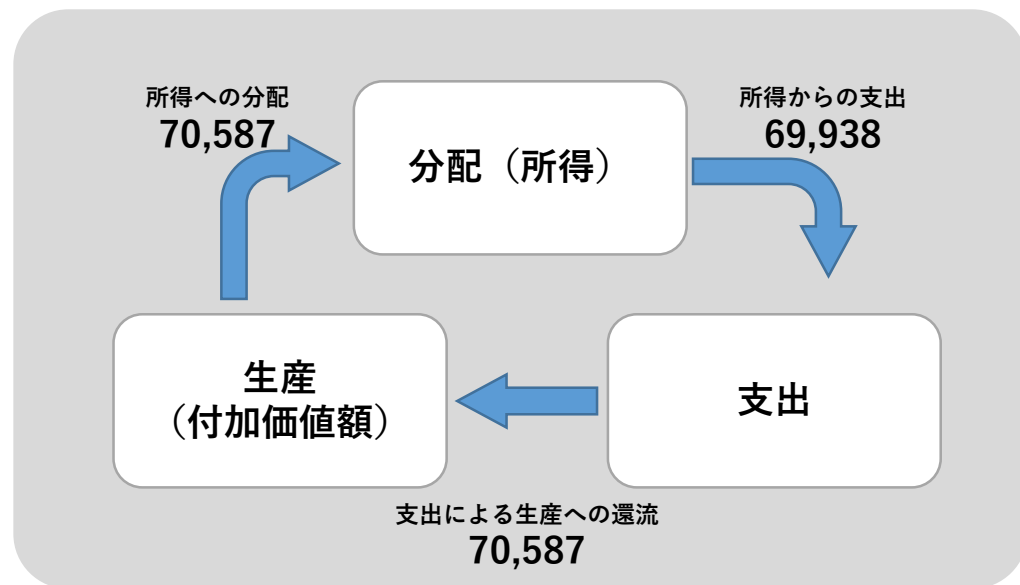
②時代の変化に伴う産業の転換

独立して自立する経済圏

(関西3圏域の一員として東京一極集中に対抗)

地域経済循環率
100.9%

地域経済循環図
2021年
(神戸市)



地域経済循環率

$$= \frac{\text{市内で産みだされた富 (市内総生産)}}{\text{市内に集まった全所得 (市民総所得)}}$$

循環率100%以上：近隣市で働く人にも所得配分 (圏域の中心都市)

循環率100%以下：市外で働いて所得を得ている (ベッドタウン)

地域	人口 (人)	総生産額 (億円)	一人当たり 総生産額 (万円)	地域経済 循環率
東京都	13,843,525	1,144,195	826.5	152.8%
川崎市	1,521,562	61,701	405.5	85.1%
横浜市	3,759,939	146,676	390.1	80.7%
さいたま市	1,324,589	48,234	364.1	81.8%
名古屋市	2,300,949	139,348	605.6	118.5%
大阪市	2,739,963	201,577	735.7	142.5%
神戸市	1,526,835	70,587	462.3	100.9%
京都市	1,400,720	66,476	474.6	101.4%
西宮市	484,204	14,154	292.3	73.1%
福岡市	1,562,767	78,277	500.9	105.8%

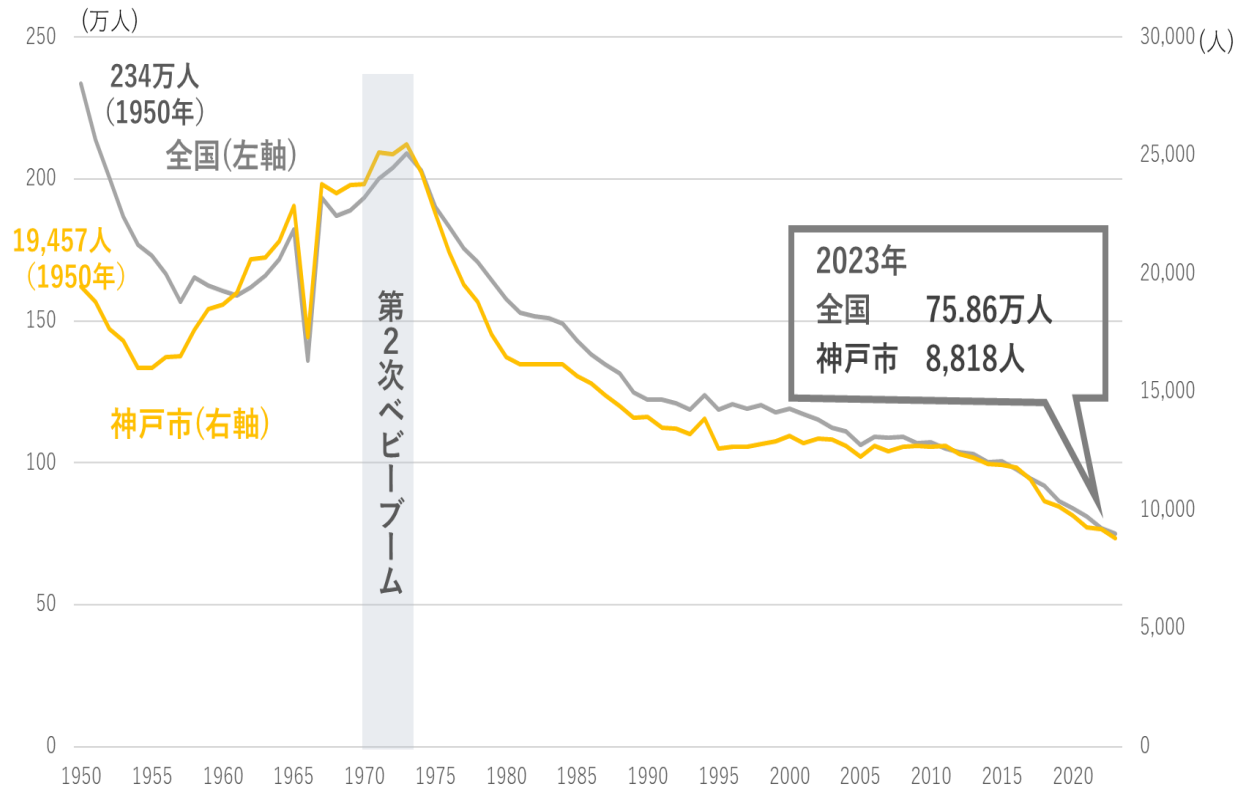
出典：(人口) 総務省「2021年住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査」、(総生産額) 2021年各都県市「都民・県民・市民経済計算」、(地域経済循環率) RESAS「地域経済循環図2018年」(神戸市のみ市民経済計算(2021年)から算出)

※人口1人当たり総生産額 = 総生産額 ÷ 住民基本台帳の人口 (2021年1月1日時点)

3. 神戸のこれまでと今 (2) 神戸市の人口推移

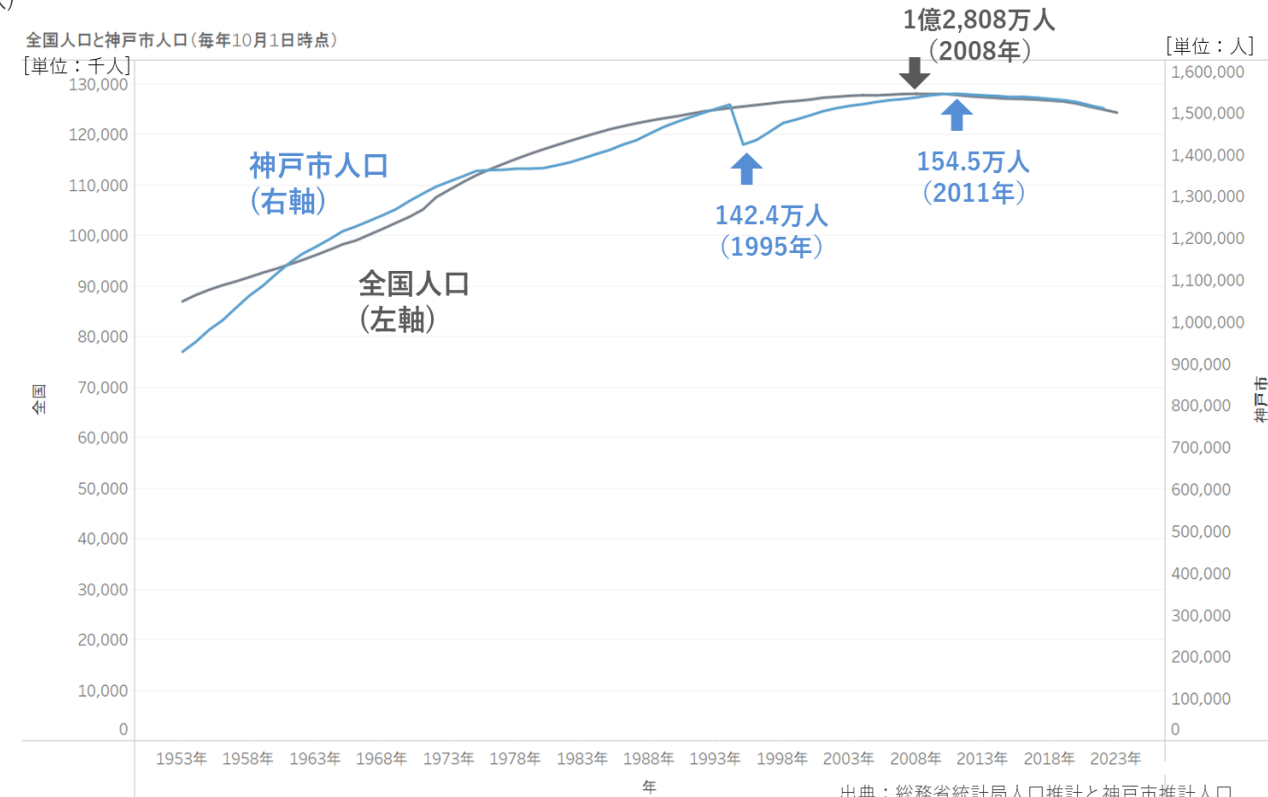
①これまでの人口推移

全国的に急激に進む少子化「出生数の推移」



出典：厚生労働省人口動態統計、神戸市統計書より市作成

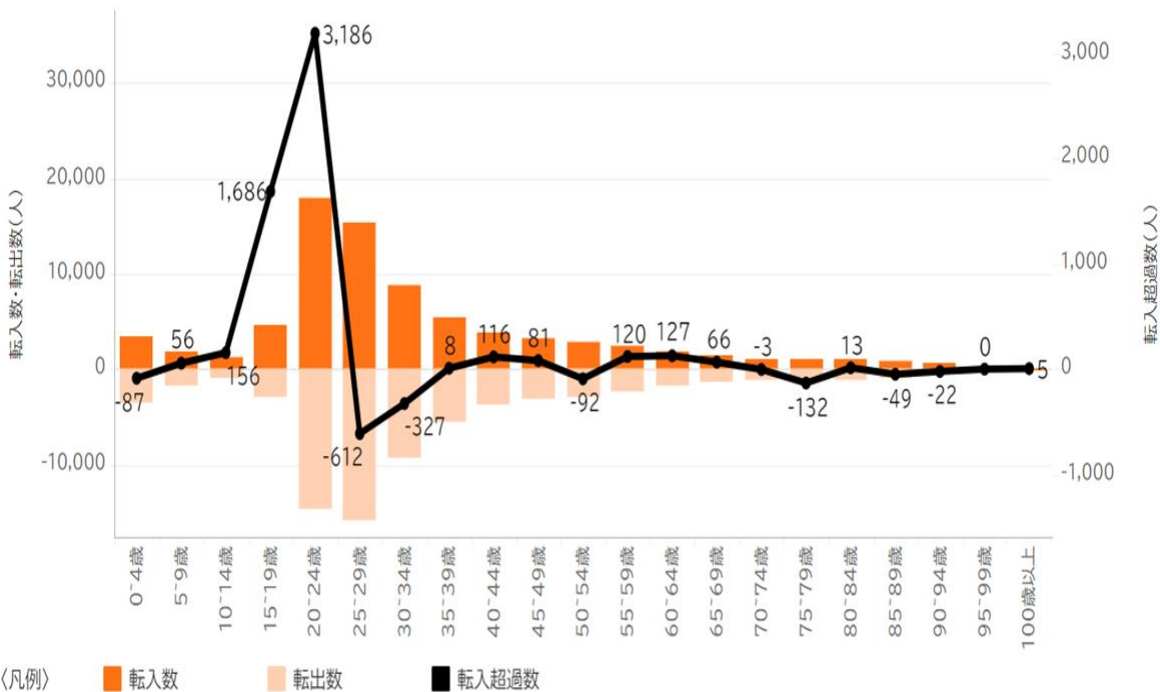
2011年をピークに減少
(日本全体も2008年をピークに減少)
今後も大幅な自然減を背景に減少トレンドに



3. 神戸のこれまでと今 (2) 神戸市の人口推移

②神戸の人口動態の特徴

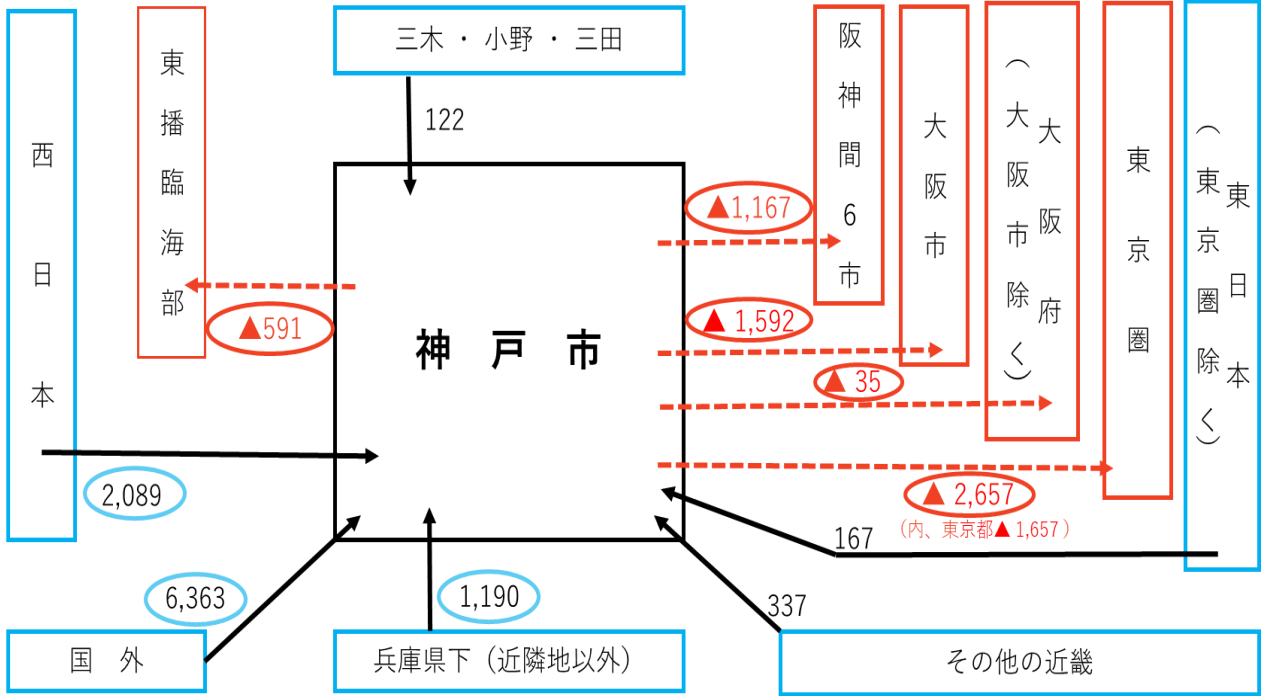
- ・ 就学時期に大幅な転入超過、就職時期等で転出超過
- ・ 東京一極集中の影響もあり、東京圏への転出超過が大きい（転入：約5,600人、転出：約8,300人（2024年））
（（参考：兵庫県内の動態） 転入：39,253人 転出：39,651人）



（凡例）
■ 転入数
■ 転出数
■ 転入超過数

（注釈）
・ 転入超過数＝転入数－転出数
・ グラフ上、転出数は負の値として表示しています。

出典：神戸市ホームページ「人口動態」（2024年）



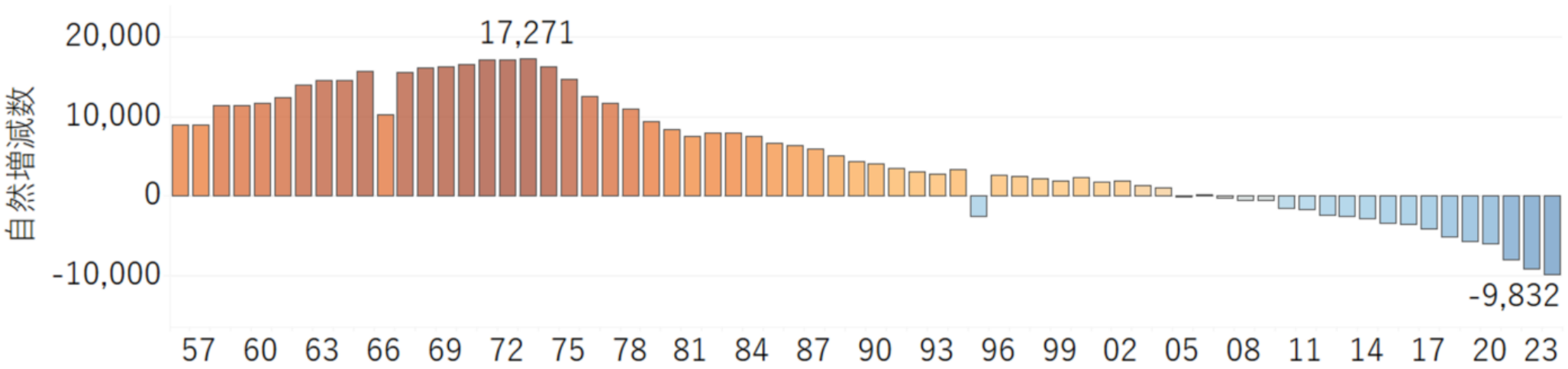
阪神間6市・・・芦屋市、西宮市、宝塚市、尼崎市、伊丹市、川西市
東播臨海部・・・明石市、加古川市、高砂市、加古郡
東京圏・・・埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県

神戸市全体の人口動態

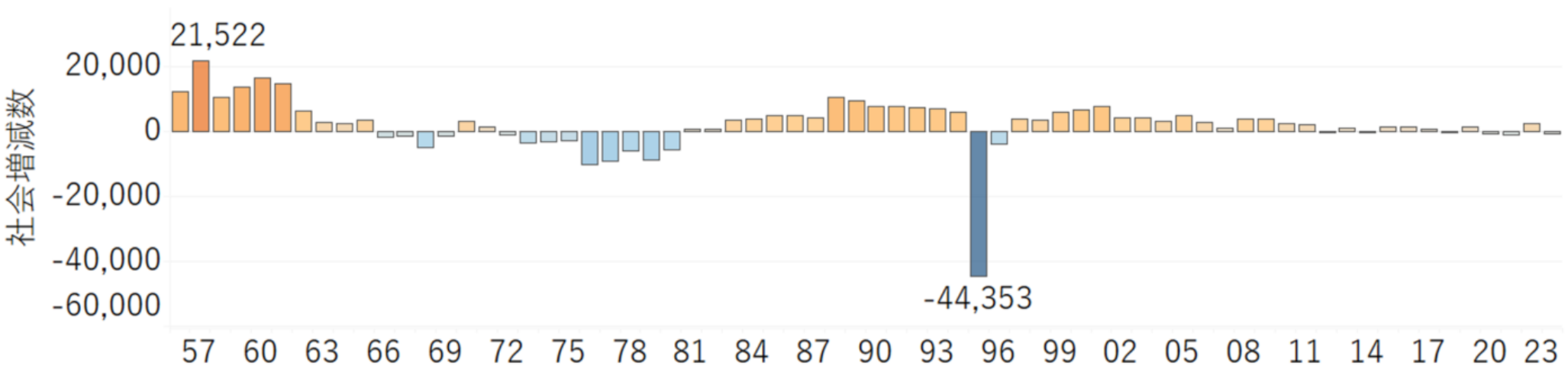
要因は自然減

(参考)

自然動態の推移



社会動態の推移

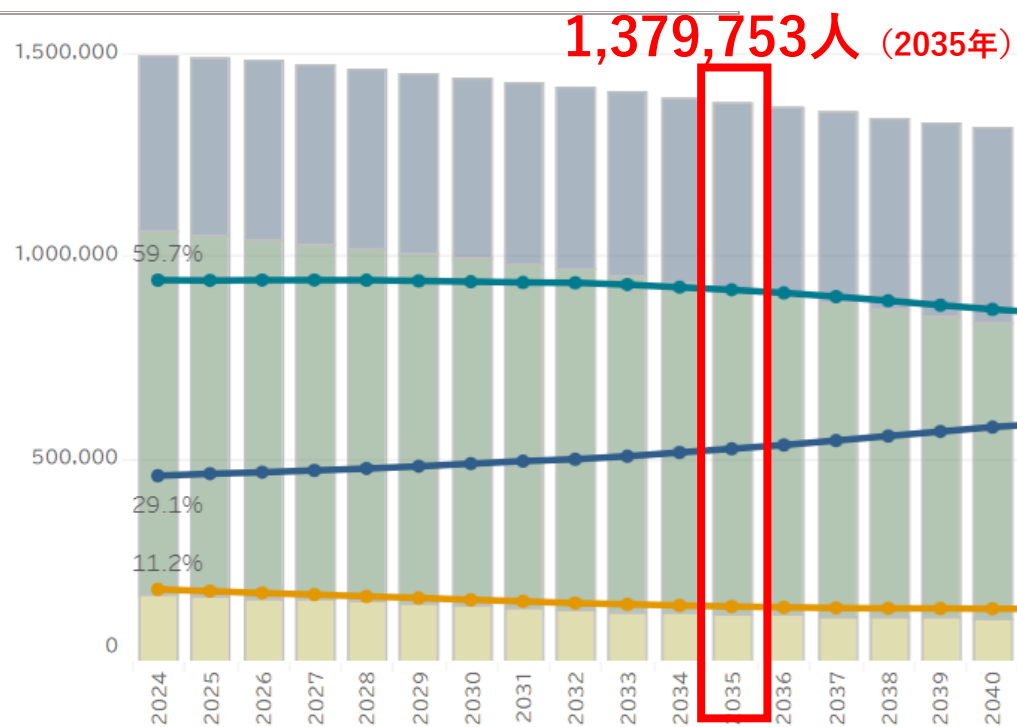


3. 神戸のこれまでと今 (2) 神戸市の人口推移

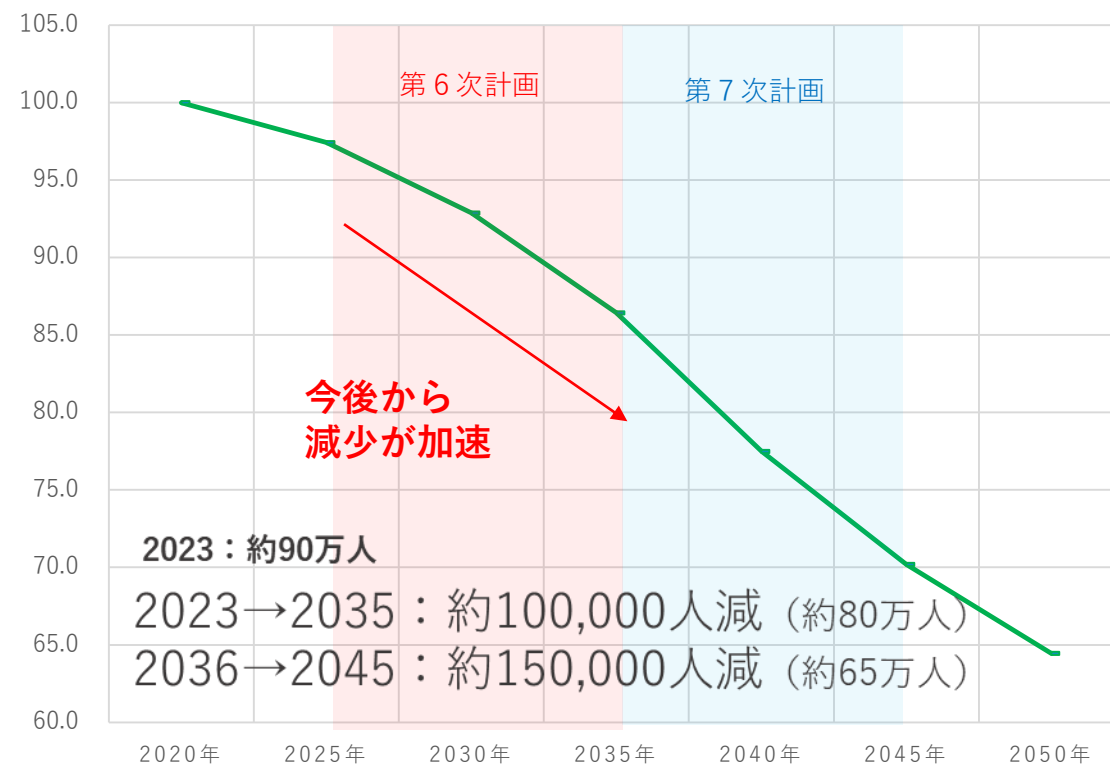
③ 今後の人口見通し

将来の状態を見据え、日本全体で人口が増え続けた時代とは異なる
これまでにない発想での対応が必要

将来人口推計 (神戸人口ビジョンより)



生産年齢人口指数 (2020年基準)

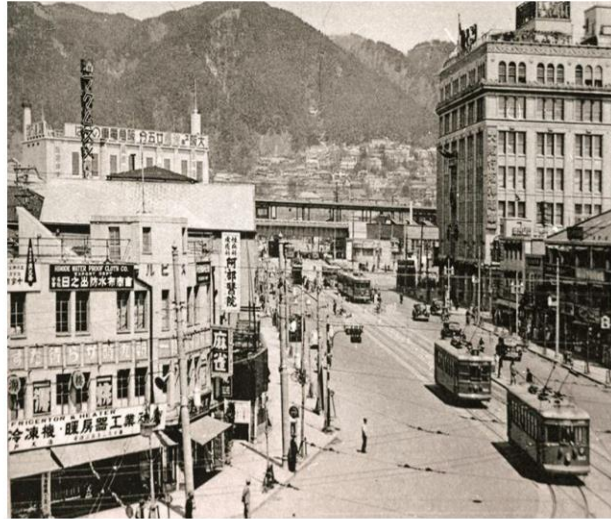


3. 神戸のこれまでと今 (3) 神戸の都市開発

①これまでのまちづくり



1920年 阪急電車開通



1936年ごろ

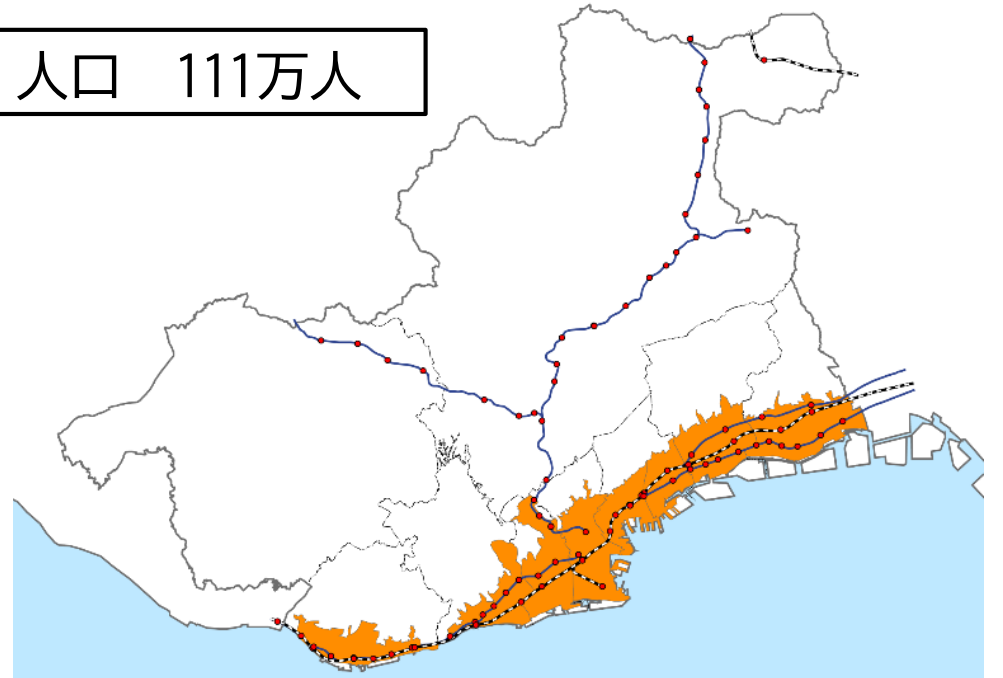


1968年ごろ

人口集中地区

1960年

人口 111万人



3. 神戸のこれまでと今 (3) 神戸の都市開発

①これまでのまちづくり

「山、海へ行く」の都市開発

- 1950年代の高度経済成長
産業の新規用地・住宅地の不足
- 山と海の開発
山：住宅団地、ニュータウン
海：埋立地（ポートアイランド、六甲アイランド）



須磨ベルトコンベヤー

3. 神戸のこれまでと今 (3) 神戸の都市開発

②現在の状況

人口集中地区

2020年

人口 153万人

人口集中地区は全体の約28%
(他市と比べると低い)

鉄道

人工島



山を切り開いたニュータウン



都心 と 海上都市

3. 神戸のこれまでと今 (3) 神戸の都市開発

②現在の状況

多彩な表情を見せるまち



都市のスポンジ化の進行

都市の内部において、**空き家**、**空き地等**が、小さな敷地単位で、時間的・空間的にランダムに、相当程度の分量で発生する現象

出典：都市のスポンジ化について（国土交通省）より抜粋

3. 神戸のこれまでと今 (4) 幾多の災害を乗り越えてきたまち

①災害の歴史

- 1938年7月、阪神大水害 ⇒ 罹災家屋約9万戸 ⇒ 水害リスクを踏まえた都市計画へ
- 1945年 神戸大空襲 ⇒ 罹災面積は総面積の60.1%
- 1995年1月17日 阪神・淡路大震災



明治時代（植林中の様子）



り通町元しきつに緒の興復

（害水方地神阪）



地震当日の長田・兵庫方面

3. 神戸のこれまでと今 (4) 幾多の災害を乗り越えてきたまち

②市民の誇り

BE KOBE

神戸は、人の中にある。

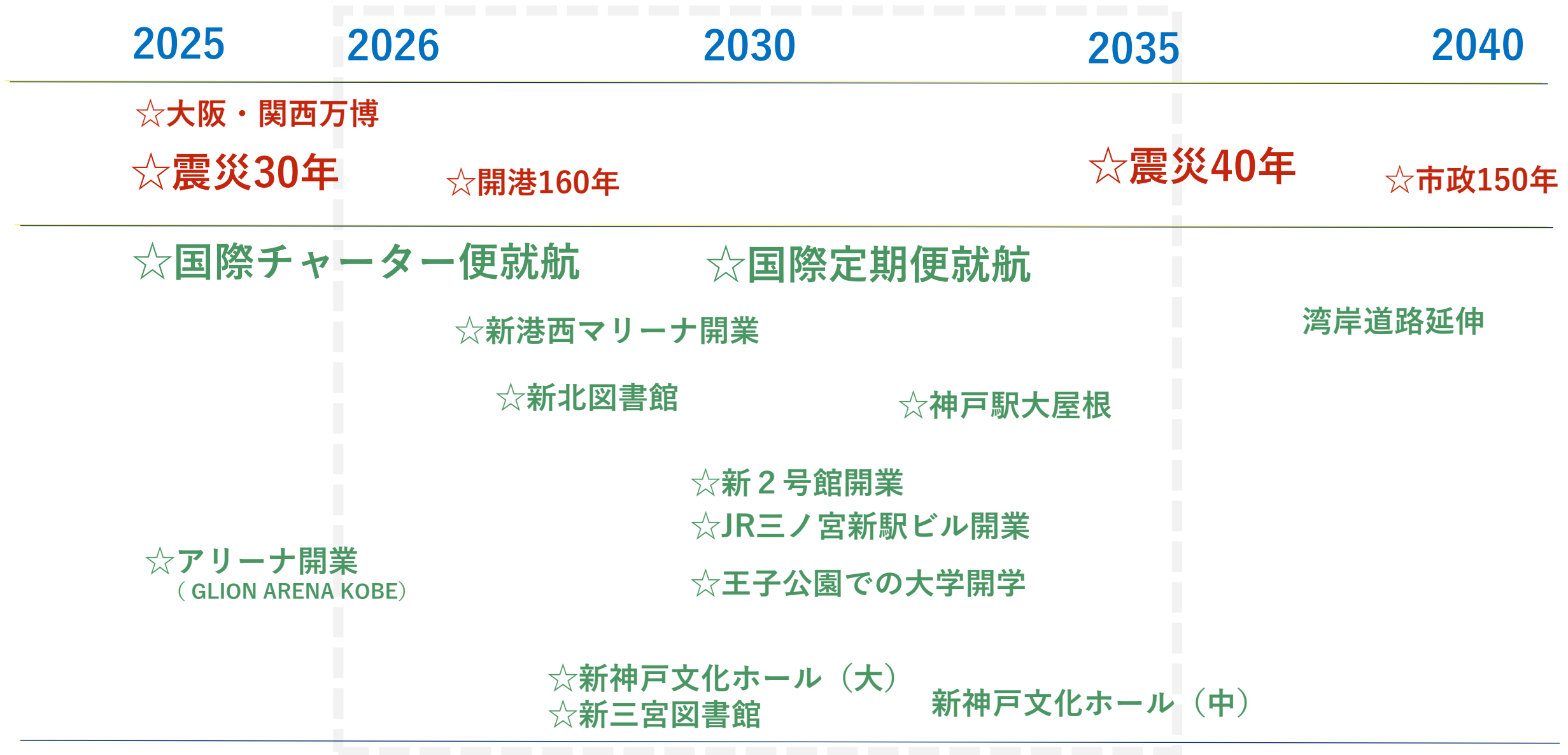
神戸の魅力は、山より、海より、人でした。震災から20年。この歳月の中で、ひとつ、はっきりしたことがあります。それは、神戸のさまざまな魅力の中で、いちばんの魅力は、人である、ということ。この街には、街の復興のためにチカラを尽くす人々がいます。困っている人に対して当然のように手を差しのべる人々がいまだに数えきれないほどいます。人は、どれほどの困難に出会っても、それでも前を向き、心を合わせて生きていく、大きなチカラを持っている。そのことを教えてくれた20年を、私たちは大切にしたいと思います。それぞれの心の中で育まれてきた、それぞれの「神戸」。「BE KOBE」は、ひとりひとりにそれを語ってもらい、みんなで共有し、歩みを進めるための取り組みです。あなたも、あなたの中の神戸といまいちど向き合ってください。



BE KOBEの生い立ち

阪神・淡路大震災から20年を迎える2015年1月、神戸市では、神戸で生まれた震災の教訓や知恵を集め、多くの人に発信する「震災20年神戸からのメッセージ発信」プロジェクトを実施し、「神戸の魅力は人である」という思いを集約したシビックプライド・メッセージです。新しいことに挑もうとする人や気持ちを愛する、そんな神戸を誇りに思うメッセージとして広めています。

3. 神戸のこれまでと今 (5) これまでの取り組みにより見込まれるまちの変化



①神戸空港の国際化

神戸空港が国際空港となる「第2の開港」

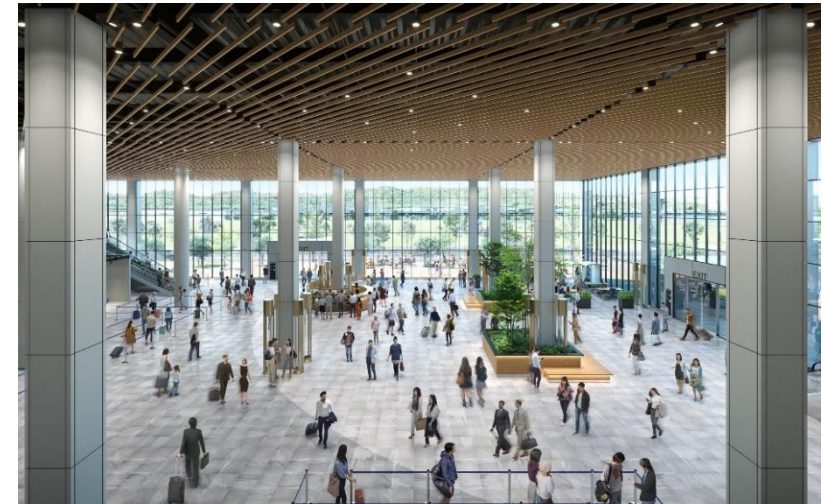


2025年4月18日～

【就航便数】 週 **40** 便の国際チャーター便

【就航都市】 アジア **5** 都市

- ・ 韓国 | ソウル (仁川)
- ・ 中国 | 上海 (浦東)、南京
- ・ 台湾 | 台北 (桃園)、台中



そして、2030年前後には**国際定期便**の運用開始を目指す

市域全体の活性化

都心部の魅力向上



居住機能の抑制

企業誘致施策

商業・業務系建築物
に対する容積率緩和

働く場やにぎわいの場を誘導
居住機能との良好なバランスをとる



郊外等の住環境向上



市内複数の
駅周辺リノベーション

まち・くらしの質を高め人口を誘引

②都心部の魅力向上（都心三宮）

神戸三宮阪急ビル（仮称）JR三ノ宮新駅ビル
2021年4月開業 2029年度完成予定



サンキタ通り
2021年4月リニューアル



三宮クロススクエア
（第1段階）
2029年度完成予定



雲井通5丁目地区
（新バスターミナル1期）
2027年12月完成予定



東遊園地
2023年4月リニューアル



フラワーロード（税関線）
2024年度以降順次整備



中央区役所・
中央区文化センター
2022年7月オープン



市役所本庁舎2号館
2028年度頃完成予定



※パースはイメージであり、今後の設計及び関係機関との協議により変更となる場合があります

②都心部の魅力向上（ウォーターフロントの再開発）



神戸ポートタワー
2024年4月26日リニューアルオープン



GLION ARENA KOBE
2025年4月4日 オープン



③ 駅周辺のリノベーション

西神中央駅



鈴蘭台駅



名谷駅



垂水駅



大池駅



花山駅



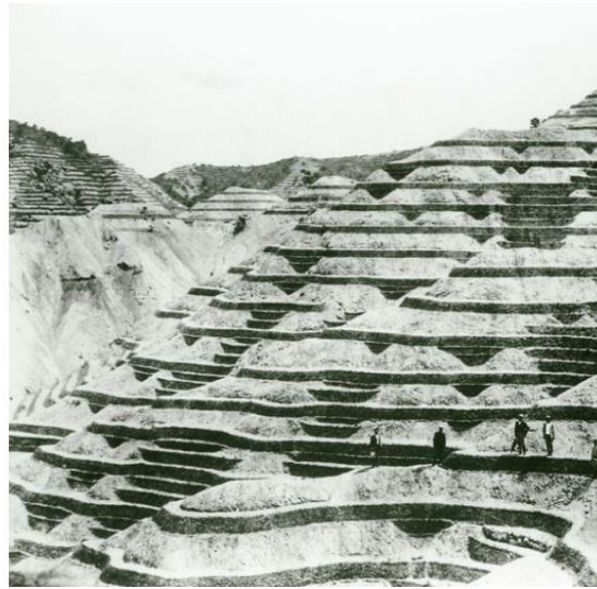
神戸駅



④ 森林・里山の再生（1 / 2）



江戸時代後期



明治時代



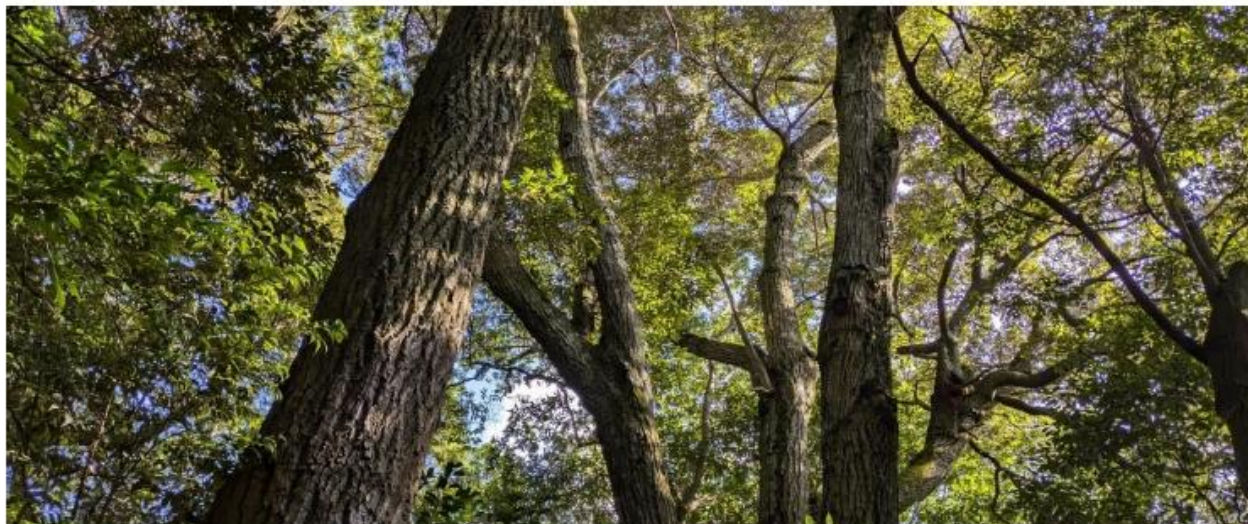
1920年頃の再度山



現在の六甲山



④ 森林・里山の再生（2 / 2）



【基本姿勢】

未来を見据えた**都市の持続可能性**を最重視します

今後 10 年間、神戸だけでなく、東京をはじめ全国の都市で人口が減少し、さらに加速していくことが見込まれます。

この時代の流れを冷静に捉え、短期的効果ではなく、**長期的な視点に立ち、持続可能性な都市を実現**することで、**まちの誇りを育み、次代に引き継いでいく**ことを基本姿勢とします。

4.基本構想を実現するための方向性

今後、市民等と議論

方向性①

世界と繋がる2つの港「新たな時代の国際都市」へ

方向性②

個性豊かで多様な地域の融合「日常と非日常が交わり続ける都市」へ

方向性③

ともに乗り越え育んだ絆「いつまでも幸せを感じ、分かち合える都市」へ

4.基本構想を実現するための方向性

今後、市民等と議論

方向性① 世界と繋がる2つの港「新たな時代の国際都市」へ

神戸は、古くから外国との交流によって、多様な文化や気風を取り入れることで、まちを発展させてきました。空港の国際化によって、神戸は、さらに世界に開かれたまちになります。国内外から多様な人材や技術、文化を取り入れ、神戸の強みと融合を図ることで、人やまち、しごとの魅力を大きく成長させ、いつまでも「**海と山に囲まれた美しいみなとまち**」を守り育てていきます。

国内外から集まる多様な人材や企業と、市内の大学や企業、行政等が組織を超えてつながり、イノベーションを創出することで、独立した経済圏を支える「ものづくり」、「港湾」、「観光」、「医療・バイオ」等の既存産業の発展、新たな成長産業の創出を加速させ、東京一極集中が進む中においても、関西圏ひいては日本全体の経済成長をリードしていきます。

また、海と山が織りなす美しい風景や都心・ウォーターフロント再開発との相乗効果を活かした魅力発信を強化することで、これまで培ってきたグローバル人材の受入機能や輩出機能を強化し、グローバル市場における神戸の存在感を高めていきます。

4.基本構想を実現するための方向性

今後、市民等と議論

方向性② 個性豊かで多様な地域の融合「日常と非日常が交わり続ける都市」へ

神戸の地理的特性や歴史の中で形作られた個性豊かなまちなみや、豊かな自然は、神戸ならではの魅力です。今後、全国的に人口減少が進む中でも、先人たちがこれまでの歴史の中で築いてきた貴重な財産を最大限に活かし、磨いていくことで、将来世代が充実したライフスタイルを送れるよう、いつまでも「**多彩な表情を見せるまち**」を守り育てていきます。

三宮など都心の中心部では居住機能を一定抑制しながら、商業・業務機能を集め、国内外から多くの人が集まり、買い物やアート、食事など非日常の体験や、魅力的なビジネス環境を提供する場を目指していきます。

また、既成市街地やニュータウンでは、まちの顔である駅を中心に、生活利便施設のリニューアルや、職住近接の取り組みなどにより、暮らしの質を高めます。さらに、六甲山等の森林や、農村・里山地域の豊かな自然を守りながら、郊外とニュータウンの交流を進め、郊外のライフスタイルをより魅力的なものにするとともに、多彩なまちなみをつなぐ公共交通網を維持することで、市民の満足度を高め、ひいては内外の人や社会から選ばれる都市を目指します。

4.基本構想を実現するための方向性

今後、市民等と議論

方向性③ とともに乗り越えた育んだ絆「いつまでも幸せを感じ、分かち合える都市」へ

これまでの歴史によって培われた進取の気風や、ともに災害を乗り越えてきた絆は、神戸のまちと人に受け継がれてきました。今後、先行きが不透明な変化の激しい時代においても、誰もが寄り添って助け合い、そして、新たな挑戦を続けていくことで、いつまでも

「人間らしいあたたかみのあるまち」を守り育てていきます。

神戸の未来を担う子どもたちをはじめ、性別、年齢、障害の有無、民族、国籍に関わらず多様な主体や団体が、地域の中でつながり、支え合いながら、誰もが安心して、それぞれの夢に向かって自由に挑戦できるまちを目指していきます。

また、子育て・教育環境の充実や、健康・福祉の増進、安全なすまい・住環境の提供などにより、誰もが安心して暮らせる環境をつくるとともに、新たなテクノロジーや技術を積極的に取り入れながら、次代をリードする防災力の強化や地球環境に貢献する質の高い暮らしを実現させます。さらに、それらの取り組みを世界に発信することで、震災で頂いた多くの支援に、いつまでも感謝の気持ちを忘れることなく、内外に貢献していくまちを目指します。

5.目標値（KGI）（案）

方向性① 世界と繋がる2つの港「新たな時代の国際都市」へ

新たな時代の国際都市として、神戸の経済圏を維持・成長させていくことにより

2025年以降の地域経済循環率：100%以上を維持

方向性② 個性豊かで多様な地域の融合「日常と非日常が交わり続ける都市」へ

市民一人ひとりが幸せを実感できるまちを目指すことにより

2025年以降の人口の社会動態：プラスの維持

方向性③ とともに乗り越え育んだ絆「いつまでも幸せを感じ、分かち合える都市」へ

これからも神戸を愛し、誇りを持ち続けるまちを目指すことで

地域幸福度（Well-Being）指標：「客観指標」の値を相対的に上昇

※地域幸福度（Well-Being）指標

国が進めているデジタル田園都市国家構想では、「心豊かな暮らし」（Well-being）と「持続可能な環境・社会・経済」（Sustainability）の実現に向け、地域幸福度（Well-Being）指標の活用が推奨されています。

この指標は、市民の「暮らしやすさ」と「幸福感（Well-being）」を数値化・可視化したもので、市民アンケートによる主観指標と、オープンデータによる客観指標で構成されています。

6. 目指すべき10年後の都市像（仮）

方向性の議論を踏まえ
今後、市民等と議論
記載は仮

自然も都会も、歴史も未来も、仕事も余暇も、安らぎも挑戦も・・・
～すべての望みに手が届くまち・神戸～

神戸空港や神戸港は、世界とつながる玄関口。そこには、絶えず人とモノが集まり、多様な文化と活気が行き交う。

都心には、おしゃれで心地よい雰囲気と、温かなもてなしの心が広がる。周辺には便利で快適な交通網が整い、新たな人々が次々と訪れ、活発な交流が生まれることで、まちの魅力はさらに増していく。

郊外へ足を伸ばせば、魅力的な駅を中心に、それぞれの理想のライフスタイルが形となり、ゆとりと上質なくらしが広がる。

山から望めば、先人から受け継いだ自然豊かな農村や里山、古くからの景勝地が悠然と広がり、夜には世界に誇れる美しい夜景が街を幻想的に彩る。海に向かえば、港町の歴史と文化を感じながら、ジャズの音色に身をゆだね、贅沢な時間に包まれる。

ビジネスシーンでは、最先端のアイデアと熱意が交差し、新たな価値が次々と芽吹き、未来を切り拓く力がみなぎる。

街のいたるところで、異なる世代や多様な人々が集い、支え合い、こどもの笑顔と人の温もりがまちに安らぎをもたらす。

人々の暮らしは、たくましく築かれたまちの礎によって守られ、それぞれの環境を思いやる行動が、次世代の安心を生み出す。

そして、まちの誇りが、人々に根付く神戸を愛する心によって育まれ、次代に紡がれていく。

アウトプット方法（冊子、ビジュアル、動画、歌 等）も共に議論